

いぐさ「ひのはるか」の茎の硬度を低下させない追肥と収穫の時期

「ひのはるか」は他の品種に比べて、収穫時に長茎となる5月後半以降の茎数が増加しやすい。「ひのはるか」は、追肥開始時期を早くすると生育が前進化し受光体勢が悪くなるため、茎の硬度が低くなり品質低下を招く。収穫時期は、7月15日前後より7月20日過ぎに遅くすると、茎の硬度が高くなる。

農業研究センターい業研究所育種・栽培研究室(担当者:高森幸光)

研究のねらい

「ひのはるか」は、「ひのみどり」の後(7月15日以降)に収穫する晩刈用として熊本県の奨励品種に採用された。長茎収量が多く置表の色調も優れることから、「ひのみどり」と並ぶ高品質置表が生産できると期待されているが、栽培方法によっては茎が軟らかくなりやすい(茎の硬度が低い)特性を持っている。また「ひのはるか」は、以下の理由で追肥や先刈時期が早くなりがちで、生育が前進化し茎の軟らかさをさらに助長することが懸念される。

茎の太さが「ひのみどり」と「岡山3号」の間でやや細く、先刈前(5月上旬)までの生育量が少なく見える。

他の品種に比べて先刈前の茎長が長い。

遅い収穫時期に対応して追肥の開始時期も遅くする必要があるので、肥効切れにより追肥開始前の茎色が落ちやすい。

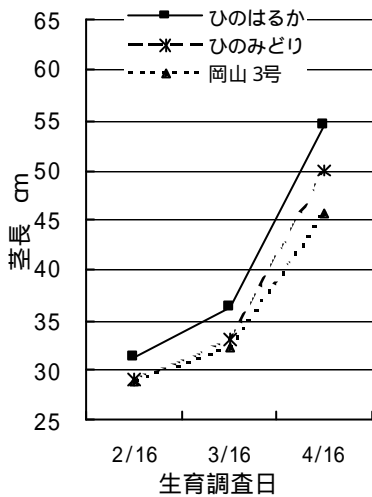
そこで、追肥時期と収穫時期が「ひのはるか」の茎の硬度へ及ぼす影響を明らかにする。

研究成果

1. 茎長は他の品種に比べて、3月から先刈前(5月前半)までやや長い(図1)。
2. 茎数は、「岡山3号」に比べて、5月前半までは差がないが、5月後半以降に出芽する茎が多い(図2)。
3. 長茎収量は、他の品種に比べて同等かやや多く、特に120cm以上の収量が多い(図3)。
4. 追肥開始時期を早めると、早期に茎数が増加し、収穫物の茎の硬度は低い(図4・5)。
5. 収穫時期を7月15日前後から7月20日過ぎに遅らせると、茎の硬度は高い(図6)。

普及上の留意点

1. 慣行追肥開始は耕種基準に準じた収穫前66日前後、早期追肥開始は基準より8~10日早く開始した結果である。
2. 「ひのはるか」は他の品種に比べて、先刈後から収穫時期まで茎長が長い傾向があるので、倒伏防止網をきめ細かに管理する必要がある。
3. 本試験は、品種比較については平成17~平成19年産、追肥方法と収穫時期については平成19・平成20年産の結果である。



(平成17~19年産の平均) (平成19年産)
 図1 茎長の推移 (普通刈)
 (植付12月15日、収穫7月15日)

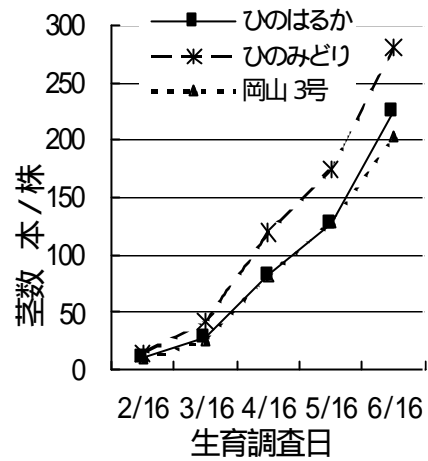
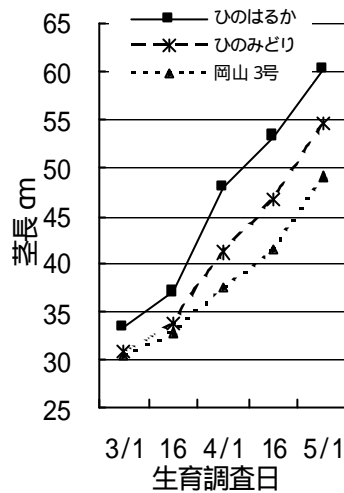


図2 茎数の推移
 (平成17~19年産普通刈の平均)

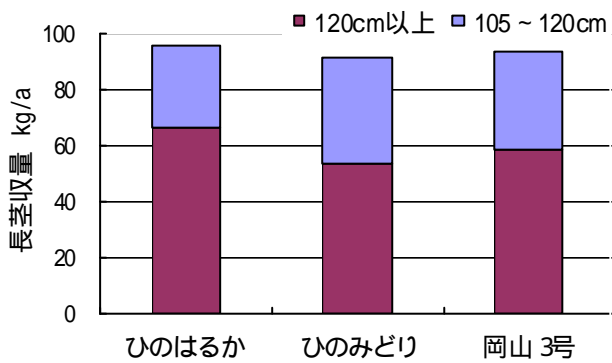


図3 長茎収量
 (平成17~19年産普通刈の平均)

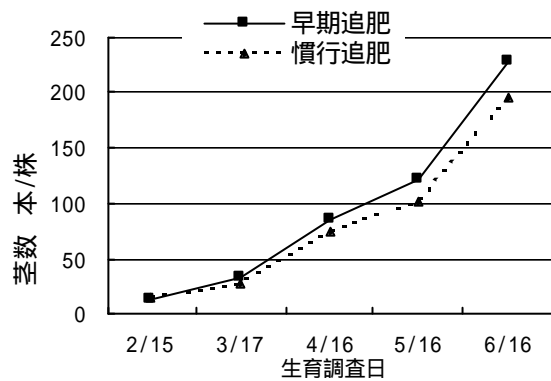


図4 追肥の開始時期と茎数の推移
 (平成20年産：普通刈)
 (植付12月14日、収穫7月14日)

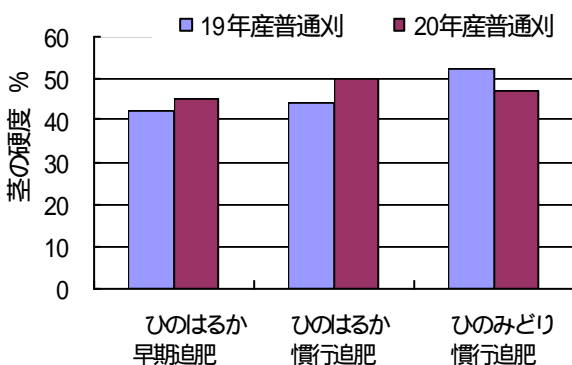


図5 追肥の開始時期と茎の硬度(120cm以上)
 (平成19年産：普通刈)
 (平成20年産：普通刈)

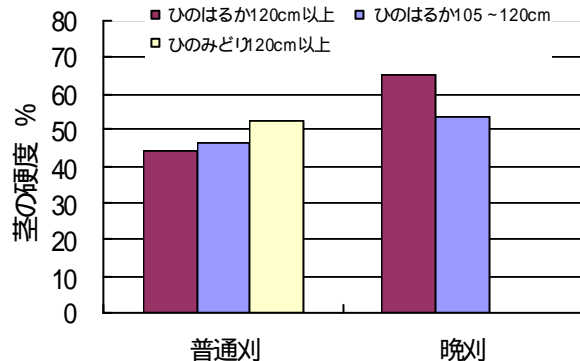


図6 収穫時期と茎の硬度 (平成19年産)
 (普通刈：植付12月15日、収穫7月17日)
 (晩刈：植付12月22日、収穫7月23日)